

荒崎水害から 1 年

昨年、台風 6 号による集中豪雨で荒崎水害が起きて 1 年が経ちました。この地域は増水した大谷川の水が洗堰から越流し、甚大な被害をもたらす水害常習地域です。昨年 11 月「荒崎地区から水害をなくす会」が結成され、この 20 日に「荒崎水害 1 周年住民大会」が開かれました。

遊水地とは洗堰と囲い堤と

排水機があってはじめて洪

水防止に役立つ

住民大会では大垣市在住の伊藤安男花園大学名誉教授による「洗堰と遊水地・輪中」というテーマの講演がありました。伊藤教授は、「洪水調整をする洗堰（越流堤）を設ける場合は、周



りを堤防で囲んで、排水機能を設置した遊水地をつくることが大切。全国各地にこのような洪水防止策の遊水地があり、日常的には遊水地公園にして地域住民の活動の場になっている」と紹介されました。荒崎水害の解決の方向として注目されました。また、全国各地の洗堰（越流堤）をもつ地域の様子をスライドを使って紹介され、洗堰（越流堤）がありながら、囲い堤と排水機がないところは全国でも荒崎地区だけであることを知った住民たちからは驚きの声が聞かれました。

この 1 年の荒崎地区住民の動き

荒崎地区の住民有志で「水害をなくす会」を立ち上げ、今までの不平等な水害対策を改め、抜本的な水害対策を求め活動しています。行政責任を追及する訴訟部会、一般廃棄物処分場の存在で、水害に伴うダイオキシン汚染など環境問題を考える部会や輪中堤や水防壁の設置を考える部会など、今までの行政お任せの水害対策ではなく、住民自ら自分達の地域を考える組織ができてきました。

それは、自治会の動きにも反映され、今年の１月、荒崎連合自治会として「荒崎連合自治会 大谷川・相川・泥川河川改修事業に伴う要望書」を提出しています。

また、５月末には遊水地並みの固定資産評価を求めて、荒崎地区住民１０９名分の「固定資産評価審査申出書」が大垣市に提出されました。現在、大垣市からの回答を待っているところです。

荒崎地区の水害対策は前進したか・・・

水害に遭った時、全国の注目を集め、議会でも多くの議員が取り上げました。しかし、共産党以外の議員の水害対策は「徳山ダムを完成させた暁に洗堰を撤去させる」というものでした。共産党は、「洪水対策に徳山ダムは役にたたない。徳山ダムにつぎ込むお金を河川改修や遊水地の確保にまわせ」と主張しました。昨年の荒崎水害で明らかになったことは、徳山ダムがあっても水害は起きたということです。これは国土交通省の担当者も認めていることです。

共産党の荒崎地区の水害対策は・・・

この利水でも治水でも役に立たない徳山ダムの建設を凍結し、費用を揖斐川流域の河川改修と遊水地確保に当てた方が、よほど現実的な治水対策といえます。しかも費用は徳山ダム建設よりずっと安くつきます。

共産党の水害対策は、大谷川の洗堰を撤去する方向ではなく、洗堰から越流する過去最大規模の洪水量を溜めておく遊水地を設置することです。全国各地にあるような遊水地公園をつくり、スポーツ施設や地域の憩いの場所として活用することにより、荒崎地区が本当の意味での住宅地域として、しかもグレードアップした地域として再生することができるでしょう。